



南区障害者基幹相談支援センターだより6月号

～ 自立支援連絡協議会活動報告 ～

2022.06/30

<南区自立支援連絡協議会運営について>

新しい年度が始まり3か月がたちました。あっという間に暑い時期になりました。本当に時がたつのは早いですね。

新しい学校、クラス、職場など慣れてきたころでしょうか？コロナで今までの暮らしと変わってきたこと、それでも変わらず続けていること、など考えながら南区自立支援連絡協議会の活動を続けていきます。

今年度、南区障害者基幹相談支援センターの地域活動センター「クオーレ」では、2名の職員を迎え新たな活動を始めています。どうぞよろしくお願いいたします

地域の避難訓練や研修会など集まる機会も徐々に増えてきました。南区自立支援連絡協議会でも感染防止対策をとり、顔を合わせる機会も作っていききたいと思います。

令和4年度 定例会のお知らせ

昨年に引き続き、定例会は書面開催といたします。関係の皆様には郵送で資料をお送りいたします。ご意見等ありましたら、南区障害者基幹相談支援センターまでご連絡お願いいたします。来年こそは、皆さんにお会いして開催したいです。

<福祉関係事業所連絡会>

令和3年度は、事業所むけに、2回、研修を行いました。いずれも、zoomを利用したオンラインでの研修です。

第1回のテーマは「精神障がいがある方の特性と対応の仕方について」。基幹センターサテライト相談員小野原より、基本的な講義を行ったうえで、事前アンケートに基づいた、具体的な質疑応答と行いました。

第2回は「名古屋市（南区）の防災のしくみを学び、事業所の防災活動に役立てよう」。区役所総務課防災担当から、名古屋市の防災活動の説明を受けた後で、地区防災カルテの具体例を踏まえて、グループ討議を行いました。

オンラインでの講義・グループでの話し合いについては、運営側も参加側も定着し、問題なく実施できるようになっています。その反面、オンラインでの研修は、事業所同士の交流や、「横つながりをつくる」という点に弱さがあります。多くの事業所が参集した対面研修には、まだ感染リスクがありますが、令和4年度は、さらに事業所間の交流を深めることも意識して、活動を行っていきます。

<要援護者の防災を考える会>

令和3年度はコロナ禍により地域の避難訓練等は中止、地域の方への啓発活動「要配慮者講習」も中止となりました。そのような中で、どんな活動をするか？とメンバーがオンライン会議で模索する1年でした。学区の皆さんと意見交換をし、災害時の要配慮者のことを考えてもらうきっかけづくりを継続していこう！という方向性のもとに、学区への訪問活動をおこないました。

令和4年5月29日、2年ぶりに水防訓練が笠寺小学校で開催されました。要配慮者の防災を考える会では「要配慮者講習」を行い知的、精神、身体（聴覚障害）の方が災害時に困ること対策として日ごろからのお付き合いの大切さなどをお話ししました。

参加した地域の方は、当事者やご家族のお話をとても真剣にきいてくださり一緒に考える時間を持つことができました。



<児童の生活を考える会>

まだまだ感染状況が落ち着かない状況の中、児童の生活を考える会では、コロナ禍での子どもたちの様子、夏のプログラム内容、保護者支援について、報酬改定について等意見交換を行いました。お互いの状況を聞き、各事業所での取り組みに繋げる事業所もありました。

外出がままならない状況でしたので、思い切りからだを動かしてあそべる場の提供として、みなみっこフェスに取り組みました。例年とは違い、他事業所と交わらないよう時間を区切り貸し切り状態として普段事業所にはない遊具などであそぶ子どもたちの姿が見られました。今年度は暑さ対策のため開催場所や時期などを検討しつつも、継続して取り組んでいく予定です。

『つながり続ける』ことを大切に取り組んでいるプレゼント交換は、昨年度も取り組みました。「喜んでくれるかな〜？」など受け取る他事業所の友だちのことを想像しながら制作に取り組む子どもたちの姿が見られた、と聞いています。子どもたちの思いが詰まったプレゼント交換になりました。

また、今年度はWGの皆さんからの意見も多かった“性についての学習会”について取り組みます。講師の先生をお招きして、実りある学習会にしたいと思っています。

子どもたちが楽しく安心して暮らせるよう、今年度もWGを進めていきたいと思っています。

<相談支援連絡会>

昨年度はこれまでやってきた研修の継続希望に沿えるよう考え行ってきました。日本福祉大学木全先生の事例検討会年2回、日本福祉大学宇佐美先生のケースメソッド技法研修、社会福祉法人親愛の里小野原さんによる精神科病院との連携について、なごや高次脳機能障害支援センター諸岡さんによるコミュニケーション支援の研修を行いました。

また、相談員の防災に関する意識を高めるために「名古屋市の避難所運営マニュアル」や「(星崎)地区防災カルテ」を皆さんといっしょに確認し、事前に何ができるのかを話し合いました。

そして、南区の地域課題を年1回、市の連絡会・南ブロックに提出していますが、いくつか毎年同じ課題を出し続けていることもあり、今年度は地域課題の視点をより相談員が意識できるように話し合う会を設けて、市だけでなく南区で行えるものがないかも含めて皆さんとアイデアを出し合い検討していけたらと思っています。



<地域生活支援拠点の面的整備の会>

令和3年度は、オンラインで会議が定着し、対面と変わらず話し合いができるようになりました。

「お助けショートステイ」は、介護者の病気や事故、出産等のため、一時的に家族支援が受けられないリスクに備えるものです。事前登録が推奨されており、相談があったケースについて、様々な支援のあり方（面的な整備）を、毎月、会議で、検討しています。現在までに22名の方が、事前登録されています。

親元からの自立や、地域生活を目指す第一歩としての「お試しグループホーム」という制度も、少しずつ利用が始まっています。

令和3年度は、南区手をつなぐ育成会の例会で、「お助けショートステイ」「お試しグループホーム」について報告することができました。

令和4年度は、新しく南区で社会福祉法人ゆたか福祉会が運営する「地域生活支援拠点事業所まーぶる」の活動が開始されます。南区内で2カ所目の地域生活支援拠点事業所になります。

地域生活支援拠点事業について、南区独自のパンフレットを作成し、拠点事業所・基幹センター・区役所に設置してきました。

今後も、地域の皆様に幅広く周知できるよう取り組んでいきます。



＜地域福祉力を伸ばそう＞

令和元年度に「あなたも誰かのサポーター ～ こころの健康ピアサポーター養成講座」という中学生向けの研修を実施しました。令和2年度は、コロナ禍のため中止しましたが、令和3年度は、中京大学川島教授と、ゼミの大学生・大学院生、子ども応援委員会の方々との会議を重ねて、オンラインで開催することができました。当日は、中学生が困った時の相談先として、「いのちの電話」「子ども家庭支援センターさくら」「児童館」「保健センター」「子ども応援委員会」にオンラインで参加していただき、具体的な説明をしていただきました。

「地域福祉力を伸ばそう」ワーキンググループは、平成26年度から、地域啓発のための、様々な取り組みを行ってきました。現在では、要配慮者の防災を考えるワーキンググループでの活動や、地域活動支援センタークオーレの地域開放プログラムなど、様々な場面で、地域啓発の機会が増えています。そのため、地域福祉力を伸ばそうワーキンググループとしての活動は、令和3年度をもって、発展的に解消をすることになりました。今まで、本当に有難うございました。

今後も、活動を通じて得られたつながりを大切にしながら、障害がある方が生活しやすい地域づくりに努力していきます。



発行元：南区自立支援連絡協議会事務局

南区障害者基幹相談支援センター

TEL：052-822-3001 / FAX：052-822-3035